

# 平成30年度 研究部経営案

研究主題

## 確かな学力を実感できる、授業づくり ～基礎学力の定着と向上を目指して～

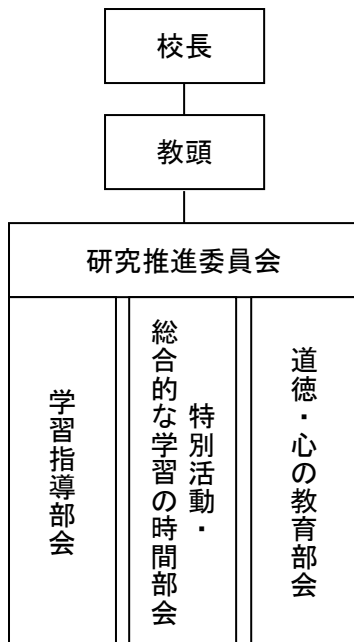
### 1 研究の基本方針

- (1) 昨年度までの研究を踏襲し、継続・発展できるような取組を展開していく。
- (2) 学校教育目標を達成するために、各部各係と連携協力した研究活動を行う。
- (3) 生徒の変容（成長・向上）を中心にすえた研究活動を行う。
- (4) 具体的な研究活動を通して、教師の資質や能力の向上を図る。
- (5) 学校、保護者、地域社会と連携を図りながら、研究活動を推進する。

#### 【具体的な実践事項】

- ① 確かな学力へとつながる、授業の工夫と改善
- ② 道徳の教科化に向けた授業づくり
- ③ すべての教育活動中での規律、規範意識の醸成
- ④ 研修内容の工夫と、教師の資質及び指導力の向上
- ⑤ 情報モラル教育を中心にすえた系統的なキャリア教育の推進（小中高連携）

### 2 研究組織図



#### 学習指導部会

##### 授業改善と学力充実

→学習内容が社会でどのように役立つのか、学習の意義・目的を理解させる。

- ① 系統的な教科等の年間指導計画の作成と横断的指導
- ② 基礎的・基本的内容の定着を意識した授業づくり

##### 特別活動・総合的な学習の時間部会

##### 体験活動の充実

→よりよい生活や人間関係を築く活動を通して、生き方についての自覚を深めさせる。

- ① 「学習意欲の向上、学習や体験活動の意義の理解」のための手立てや各教科で得た断片的知識や能力を特別活動でつなぐこと
- ② 体験活動の充実（事前・事後指導の工夫）
- ③ 地域の教育力の活用

##### 道徳・心の教育部会

##### 道徳教育の充実

→人としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。

- ① 生徒が自ら考え、主体的に学習に取り組むことを意識して1時間の道徳の時間の指導にあたること
- ② 職場体験学習や進路選択のための取組と、道徳の時間を効果的に関連させて実践すること

### 3 研究の取組の柱（昨年度までの取組より）

生徒指導、各教科・特別活動・道徳・総合的な学習の時間で以下のような柱をたてて、研究主題に迫る。

#### （1）生徒指導

- ・規範意識を持ち、落ち着いた学校生活を送らせるとともに、社会の一員としての自覚を持たせる。

#### （2）各教科

- ・個性や能力の伸長をめざして、個々の課題解決を支援し、学ぶ楽しさや成就感を体得させる中で思考力を培い、生涯を通じて学び続けていく資質・能力を育てる。

#### （3）特別活動

- ・人間関係を築く力やコミュニケーション能力を育てる。
- ・集団活動を通して、集団の中での自分の役割と責任を理解させ、集団のために力を尽くそうとする態度を養う。
- ・進路を自分自身の問題として受け止め、自らの意志と責任で選択・決定する能力や態度を養う。

#### （4）道徳

##### 道徳教科化指導要領改定案について

- ◆小中学校の道徳を「特別の教科」として教科化する。（2018年度より）
- ◆教材を読むことを中心にした従来のスタイルから脱却し、問題解決や体験学習の手法を新たに提示する。
- ◆児童生徒が特定の見方に偏らず、多面的に考えられるようになることを目指す。
- ◆改訂案は授業で「児童自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組む」ことを強調。問題解決型の学習や体験学習などの手法を示し、「社会的課題を自ら解決しようとする意欲や態度を育てよう努める」と記述してある。いずれも現行の指導要領にはない。
- ◆問題解決型の学習では、自分の気持ちを友達にメールで伝えるときの文面を考えたり、生命倫理の観点から代理母出産のあり方について議論したりといった内容などが想定される。
- ◆体験学習では、ロールプレーを通じて礼儀作法を学ぶなどの手法が考えられる。

- ・人との関わりを重視し、互いに認め合い、生かし合う人間関係をつくろうとする心情や判断力を培う。
- ・勤労の大切さや意義を理解させ奉仕の精神を持って、社会の発展に寄与しようとする態度を育てる。

#### （5）総合的な学習の時間

- ・体験活動を主たる場として、問題解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

### 4 研究の仮説

- ① 生徒の実態に応じて、授業形態や内容を工夫し、個に応じたきめ細やかな指導を行えば、生徒が主体的に学ぶ意欲は向上するであろう。
- ② 教師が全教科・全領域で確かな学力向上を意識した授業を実践すれば、学習意欲が高まり、基礎的基本的学習内容の定着につながるであろう。

#### （1）研究の基本的な姿勢

- ① お互いの個性や特長を生かし、全職員で取り組む。
- ② 生徒の変容を目指した研究を具体的に進める。
- ③ 各部会、学年会、教科会等の職員の考えや思いを生かし、研修を活性化する。

(2) 本年度の具体的な実践事項

- ① 確かな学力へとつながる、授業の工夫と改善
- ② 道徳教科化に向けた授業づくり
- ③ すべての教育活動の中での規律、規範意識の醸成
- ④ 研修内容の工夫と、教師の資質及び指導力の向上
- ⑤ 情報モラル教育を中心にすえた系統的なキャリア教育の推進（小中高連携）

(3) 各学年で目指す生徒の姿

第1学年

- ・自分の良さや個性がわかる。
- ・自己と他者の違いに気づき尊重しようとする。
- ・集団の一員としての役割を理解し、果たそうとする。

第2学年

- ・自分の言動が他者に及ぼす影響について、理解する。
- ・社会の一員としての自覚が芽生えると共に、社会や大人を客観的にとらえる。
- ・将来への夢を達成する上で、現実の問題に直面し、模索する。

第3学年

- ・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。
- ・社会の一員としての義務と責任を理解する。
- ・将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服する。



4 具体的実践事項

(1) 確かな学力へとつながる、授業の工夫と改善（学力の充実と教師の授業力向上）

- ① 生徒の実態に応じたT・T指導の工夫
- ② 各教科等年間指導計画の見直し

教育活動（各教科の単元や学校行事、委員会活動、道徳や総合的な学習の時間の活動など）を「点」にたとえ、それらの「点」が結びつくことで「線」ができたり、「線」がより合わさることで「面」になったりというふうにはなっていないことが課題である。（活動の断片化）

三和中学校で各教科共通の取り組み（学習形態、話し合いや発表の仕方等）を実践することで、各教科の実践（点）が線で結びつき、線が集まって面となる。面は三和中学校の実践である形となる。

③ 確かな学力を意識した授業の展開

基礎的・基本的の定着が、生徒の学力向上につながる授業づくりを全教科・領域で実践する。

〈例〉ワークシートや自己評価カードの有効的な活用。

〈例〉話し合い活動（共同学習）をマニュアル化し、各教科50分の中で話し合い活動を位置付け実践する。

〈例〉各教科で、学習内容を視覚的に整理する取り組みを行う。

→「既習内容・生活経験」「友達の意見や新たな知識」「変容した自分の考えと結論」など、一連の学習の流れを図式化する取り組みが必要。

〈例〉過去の学習や教科間のつながりについて、新しい学びが既存の学習経験の上に構築されるよう、生徒の既存の知識や過去の学習と結びつける。学習間のつながりをつくる。

④ 学習意欲の向上・学習意義の理解

各教科で得た知識や技能を特別活動でつなげる。

〈例〉特別活動や総合学習における、「スタート地点」、「現在の地点」、「ゴール」を明確化

〈例〉日常生活とのつながりについて、学習を現実社会での具体的な場面と関連づける。生徒が、日常的な問題を解決するために知識や能力を使用できる経験機会をつくる。

〈例〉将来の役割とのつながりについて、児童生徒の将来の役割（働くこと、市民、家族の成員、生涯学習者など）につなぐ。

⑤ キャリア教育にかかわる生徒の活動及び「中学生生活と進路」の計画的な実施

⑥ 情報モラル教育の継続的实践【熊本西高との連携】

⑦ 城山小学校、池上小学校、高橋小学校の3校との連携を図る

※基礎基本の定着のために

- ・朝読書の時間の定着
- ・朝、放課後の定期的な学習支援
- ・基礎基本テスト（国・社・数・理・英）の実施

**（2）道徳教科化に向けた授業づくり**

① 道徳の時間の確実な実施

※児童自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことを意識した授業づくりを行う。その際、生徒の実態に応じて、問題解決型の学習や体験学習などの手法を取り入れる。

② 道徳指導の充実と規範意識の確立

③ 特別活動を通して、各教科での取組を「つなぐ」（体験活動の充実）

※具体的方策例：ナイストライ、集団宿泊教室、職場調べ・高校調べ等において

- ・事前学習において職場体験のねらいを明確化する。（基礎的・汎用的能力からの視点）
- ・事後指導では生徒にとってお互いの体験が共有できるようにする、働くことの意義などを振りかえり、再考し明確化する。
- ・発表とプレゼンカの強化・育成

**（3）すべての教育活動の中での規律、規範意識の醸成**

① 日常指導の確実な実践：凡事徹底

② あいさつ、掃除、服装、時間（あそぶじの徹底）

③ 教育環境の充実：環境緑化の推進「花いっぱい学校」、整頓されたな室内と掲示活動の充実

**（4）研修内容の工夫と、教師の資質及び指導力の向上**

① 校内研修の内容の工夫（教師の指導力の向上につなげる）

② 外部講師等の活用

**（5）情報モラル教育を中心にすえた系統的なキャリア教育の推進（小中高連携）**

① 系統的な指導を模索する

- ・熊本西高校との連携
- ・総合的な学習の時間の工夫（2年生のナイストライ新聞を1年生に紹介する）